

事務事業名	雲南市ふるさと定住推進協議会運営事業(シェアオフィス調査研究プロジェクト)	所属部	政策企画部	所属課	うんなん暮らし推進課
政策名	(I)みんなで築くまち《協働・行政経営》	所属G	うんなん暮らし推進G	課長名	奥田清
施策名	(02)移住・交流の推進	担当者名	江角祐哉	電話番号	0854-40-1014
目的	対 象 市外の人・市民 意 図 雲南市を好きになり、移住・定住してもらう。	予算科目	会計 款 大 事 業 大 事 業 名 0 1 1 0 0 3 項 目 中 事 業 中 事 業 名 0 5 6 5 0 1	(内線)	2321
基本事業名	(005)移住に向けた魅力の発信と交流の促進				定住対策促進事業
目的	対 象 市外の人・市民 意 図 雲南市の魅力を知ってもらう。				定住対策促進事業

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (26年度～)
② 事業内容	(期間限定複数年度事業は全体像を記述) 雲南市ふるさと定住推進協議会を運営し、地域自主組織・商工会・JAを構成員として関係団体と連携して定住対策をすすめる。シェアオフィス調査研究プロジェクトとして、遊休施設をリノベーションし、H27年5月開業した三日市ラボにおいて、都市からの人材の流れや交流が拡大するための活動、または、若者のチャレンジや異業種間の交流・連携が生まれる場づくりを行う。市からの補助金により、この調査研究プロジェクトを行う。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	27年度実績(27年度に行った主な活動) 5月9日施設開業 8月・10月 活用構想ワークショップや交流イベントの開催 業務委託(シェアオフィス調査研究プロジェクト支援業務、三日市ラボ管理業務)	28年度計画(28年度に計画する主な活動) 長期的な運営構想の検討等 業務委託(シェアオフィス調査研究プロジェクト支援業務、三日市ラボ管理業務)			
	② 活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
ア	シェアオフィス稼働月数	月			11	12
イ						
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)	
	地域の課題解決活動の実践者及び興味がある人(課題解決人材、課題解決人材となりうる人)	ア	課題解決人材・課題解決人材になりうる人	人			実数把握できない	
		イ	2階シェアオフィスの利用者数(月平均)	人			6	8
		ウ	1階コワーキングスペースの利用者数(月平均)	人			124	150
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)		
雲南市で活動する。	ア	2階シェアオフィスの利用者数(月平均)	人			5.7	8.0	
	イ	1階コワーキングスペースの利用者数(月平均)	人			124.0	150.0	
	ウ							

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳(27年度決算)	② コストの推移	単位	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(計画)
補助金5,957千円 (定住推進協議会において実施した委託費(3,810千円)、工事請負費(2,639千円)及び需用費の各々の一部に補助金を充当)	財源内訳	千円			3,700	
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円		3,630	2,000	3,300
	一般財源	千円			257	
	事業費計(A)	千円		3,630	5,957	3,300
人件費	正規職員従事人数	人		2	2	
	延べ業務時間	時間		200	350	
	人件費計(B)	千円		778	1,370	
	トータルコスト(A)+(B)	千円		4,408	7,327	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
インターネット環境があれば、都市の仕事を地方で実施することに興味を持つ若者や企業が増えている、地域課題解決活動に興味がある人が増えている。	平成27年5月にオープンし、今後、長期的な施設運営について検討する。	起業・創業や交流の場として、利用者から好評をいただいている。

事務事業名	雲南市ふるさと定住推進協議会運営事業(シェアオフィス調査研究プロジェクト)	所属部	政策企画部	所属課	うんなん暮らし推進課
-------	---------------------------------------	-----	-------	-----	------------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性	この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒	見直し余地があるとする理由
	② 公共関与の妥当性	なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である * 余地がある場合⇒	
	③ 対象・意図の妥当性	対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒	
B 有効性	④ 成果の向上余地	成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？ <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない 理由	施設PRの充実と若者チャレンジ事業との連携強化に取り組む必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ <input type="checkbox"/> 影響無 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 理由	平成29年度までの3か年度を調査研究プロジェクトの実施期間としており、この期間における活動検証を行い、その後の施設運営を検討する必要がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？ <input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒ (具体的な手段や類似事業名) <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない 理由	若者チャレンジ事業等のソフト事業との連携は重要であるが、市から協議会への補助金としては統廃合等できる事業はない。
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない 理由	調査研究プロジェクトの実施期間において施設運営経費等の削減を検討することとしている。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない 理由	調査研究プロジェクトの実施期間において、現在、協議会事務局(うんなん暮らし推進課)が担う施設運営に係る人的コストについて検討することとしている。
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である 理由	地域の課題解決活動の実践者及び興味がある人については、利用者を限定していない。
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり C 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		若者チャレンジ事業との連携を一層深めることで、施設の有効性が高まる。また、調査研究プロジェクト実施期間において施設運営全般について十分に検討を進める必要がある。

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																							
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上	●																						
	維持			×																				
	低下		×	×																				
調査研究プロジェクトをすすめ、施設の利用拡大に向けたPR及び参加型イベントの実施や、若者チャレンジ事業との一層の連携を図る。																								